

24. こまつな

・殺菌剤（参考農薬）

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類（なすを除く）
21	ランマンフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	非結球あぶらな科葉菜類（なばな類を除く）

・殺虫剤（参考農薬）

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫前日まで	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類（チンゲンサイを除く）
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	
11	エスマルクDF	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	-	野菜類
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	-	野菜類（はくさい、キャベツを除く）
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期（但し、収穫前日まで）	-	野菜類（ハセリ、えごま（葉）を除く）
3	フォース粒剤	全面土壌混和	は種前	1回	非結球あぶらな科葉菜類（からしなを除く）
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	1回	非結球あぶらな科葉菜類（チンゲンサイを除く）

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
白さび病 (F)	生育期間	1. 激しく発病した茎葉は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し埋却する。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤1,000倍液、ランマンフロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 降雨が多いと発生も多くなる。 2. 窒素過多は発病を助長する。 3. 病原菌は、はくさい、チンゲンサイを侵すが、だいこんには寄生しない。 4. ジーファインは薬害を生ずる恐れがあるので連続散布しない。
キスジノミムシ	は 種 前	[参考農薬] 1. フォース粒剤を10a当り4kg全面土壌混和する。	1. フォースは蚕毒および魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アブラムシ類	生育期間	[参考農薬] 1. アグロスリン乳剤2,000倍液、又はモスピラン顆粒水溶剤4,000倍液を散布する。	1. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
コナガ	生育期間	[参考農薬] 1. エスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤、トアロー水和剤CTの1,000倍液、アフーム乳剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. アフーム、エスマルク、ゼンターリは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。